

第5 A分科会 研究課題「教職員の専門性に関する課題A」

研究主題「学校の組織力を高め、信頼される学校づくりに向けた教頭としての関わり」

宮崎支会 宮崎市立広瀬北小学校 大垣 雅史

1 主題設定の理由

世の中の社会構造や雇用環境が大きく、また急速に変化しており、予測困難な時代となっている。このような時代にあって、「子どもたちが様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくこと」、「様々な情報を見極め知識の概念的な理解を実現し情報を再構築するなどして新たな価値につなげていくこと」、「複雑な状況変化の中で目的を再構築することができるようにすること」が学校教育には求められている。

そもそも教育は、学校や教職員に対する信頼の上に成り立っていることを考えると、教職員に向けられる期待と責任は、非常に大きく、これらの課題に迅速かつ的確に対応する必要がある。そのためには、教育課程に基づき組織的かつ計画的に教育活動の質を向上していくことが不可欠であり、その実現に向けては、学校と地域が連携・協働していくことが重要になってくる。

これらの課題を克服するためには、教職員としての専門性をより高めていくことが重要であり、学校の組織力を活用し、資質や能力の育成及び指導力の向上を図っていく必要がある。

そこで、宮崎市教頭会第5班では、学校がチームとして機能し、教育効果を上げていくためには、組織の要としての教頭の関わりが重要だと考え、上記に掲げる主題を設定し、昨年度に引き続き、さらに研究を深めていくこととした。

2 研究のねらい

昨年度の宮崎市内の教頭を対象に実施したアンケートの分析をもとに、学校の組織力を高め信頼される学校づくりに向けた様々な課題について教頭としての役割を究明する。

3 研究の概要と成果

(1) 新教育課程に係る教師力アップのための組織づくり

① プログラミング教育について

平成29年度に新学習指導要領において告示され、小学校では2020年度から必修化された。

プログラミング教育では、自分で考えそれを形にしていくプログラミング的思考力や行動力の育成が重要とされ、その時々に合わせて柔軟に対応できる、時代を超えて普遍的に求められる資質・能力を身に付けることが最大の目的とされている。これらを身に付けることにより、様々な問題に対応していく力や積極性を身に付けることも期待されている。

② 各校での現状と課題

ア プログラミング教育の取組について

取り組んでいる	6校
2学期から取り組む	1校
取り組んでいない	1校

イ 取組についての現状

- ・ 情報アドバイザーと連携
- ・ 中学年、上学年中心の取組
- ・ 理科の年間計画に沿った取組
- ・ 第5学年算数科での取組
(論理的な思考や情報活用能力の育成等、一定の成果を得ている)

③ 課題

- ・ 教職員の内容理解や指導スキルの不足
- ・ フィジカルプログラミングの教材不足
- ・ 企業や地域、大学等との連携の模索
- ・ 探究的な学習への移行
- ・ 低学年からプログラミング的思考を意識した授業構成や系統立てた取組の必要性

④ 教科横断的な教育課程の編成

前述のとおり、ほとんどの学校でプログラミング教育の取組が進められている。しかし、取組として新しいということもあり、教師のスキルアップや環境の整備等今後改善していくべき課題も多い。

教頭として研修の機会を設定したり、環境の整備を進めたりしていく必要がある。

(2) 新たな制度実施へ向けて教職員の共通理解と推進

① 教科担任制について

教科指導の専門性をもった教師によるきめ細かな指導を可能とする教科担任制の導入により、授業の質の向上と児童一人一人の学習内容の理解度や定着の向上を図る。また、学びの高度化を図ることや教師の持ちコマ数の軽減や授業準備の効率化により、学校教育活動の充実や教師の負担軽減等を目指して、令和3年1月の中央教育審議会答申において、令和4年度を目処に、小学校高学年からの一部教科担任制の導入が示された。

ア 教科担任制の実施について

取り組んでいる	5校
取り組んでいない	3校

イ 取組によって効果があった点

- ・ 教材研究の負担軽減

ウ 学級担任以外の職員も関わることで生徒指導上、組織的な対応が可能

エ 取り組んでいない理由

- ・ 職員数の不足
- ・ 時間割の急な変更の対応の困難さ
- ・ 評価の方法
- ・ 職員の理解不足

以上、教科担任制を導入することで期待される学力向上の成果は十分に現れていない。教頭として県内外の教科担任制モデル校の実践を参考にしたり、学校間での情報交換をしたりしながら、各校の現状に対応した形態で進めていく必要がある。

(3) 児童の実態を見据えた上での学校・家庭・地域の協働体制づくり

① コミュニティスクールについて

コミュニティスクールとは、「学校運営協議会」を設置した学校のことで、学校運営に地域の声を生かし、地域と一体となって特色ある学校づくりを進めていくことができる仕組である。宮崎市では、中学校区ごとに学校運営協議会を設置し、活動を進めている。

ア コミュニティスクールについて

取り組んでいる	6校
次年度より実施	2校

イ 現状（今後の取組）

- ・ 学校運営協議委員の運動会や参観日等、学校行事への出席
- ・ 教職員と学校運営協議委員のミーティングの設定
- ・ 学校運営協議員との協働体制の構築
- ・ 学校のニーズの洗い出し、精選、整理
- ・ 地域人財の整理
- ・ 地域づくり協議会や保護者の関わり

教頭として児童、保護者、地域、教職員等の現状を勘案してそれぞれの学校の特色を生かした活動を模索していく必要がある。また、活動について積極的に情報発信することでコミュニティスクールへの理解を深めていきたい。加えて、コロナ禍の中での可能な活動の精選も進めていきたい。

4 今後の課題

教頭として教育活動の質を向上させるために、新たな取組を導入することで得られる成果についてだけでなく、いざ問題が発生したときにどのようにそれらに対応していけばよいかという視点に立って、その効果的な運用について検討していくことが大切だと考える。このような取組が学校の組織力向上と信頼につながると思われる。